

### メンバーの決定方法

グループだけではなく、プロジェクト授業全体が成功するようにグループを構成することです。ここでは、教員はグループ分けを指示しません。あくまでも主体である学生が、自主的にグループを構成します。教員は、グループ分けをサポートするだけです。ただし、次のポイントを学生に強くメッセージとして出します。

### ポイント

- ・グループだけではなく、プロジェクト授業全体が成功するように
- ・仲良しグループを構成しない（同じサークルで知っているから、遊び友達だから、いつも面倒を見てもらっているから⇒NG）
- ・じゃんけんやクジで決めない
- ・自分の不足している力を持っている人を探す

具体的には、学生に特徴（自己認識：専門学科、得意なこと、不得意なこと、興味を持っていること等）をシートに記入し名刺代わりに全員の学生とコンタクトし、自分をPRしてもらい、その後、学生主体でグループを構成します。“これでグループが本当に構成されるかって？”。大丈夫です。学生は先生が思うよりしっかりしていますし、先に、グループ構成の良否によって自分の1年間の満足度が異なりますから真剣に検討します。ただ、ついつい、これまで自分と一緒に行動してきたメンバーを選択しがちですが。このグループは、確実に失敗します。

(例)

### 自己紹介シート例

名前	専攻学科	
チームに貢献できること	チーム活動でつけた能力	自分の特性
興味のある事業所①	興味のある事業所②	その他自己PR

- ・一人1分の発表時間を設定します。この1分が大切です。1分で説明するための企画力、説明力、時間管理力を学びます。時間超過の場合は、途中でも中断します。時間が余った時には、教員が質問したりし発言を促します。
- ・情報交換タイムを設定します。情報収集力、アクション力、発信力、傾聴力を学びます。学生は、自分が興味ある学生への勧誘、自己PRを実施します。消極的な学生には、PRを

促したり、学生に、消極的な学生に声をかけるよう促します。

- ・仮のグループを作ります。このとき、人数のばらつきが多少あっても OK にしています。
- ・チーム代表間の話し合いを設定します。チームのバランス、チーム全体の成功、仲良しグループになっていないかの確認とグループ員合意によるメンバー変更を行います。
- ・各グループにポートフォリオ用のリサーチラボノートを渡し、グループ名とグループメンバーを記入してもらい、グループ活動のスタートを意識してもらいます。

### コラム (グループ力のチェック)

グループのメンバーが決定しましたが、グループの構成が良かったか悪かったかプロジェクトが終わるまでわからないのだろうか？

#### ・一本の指

チームビルディングのアイスブレイクでよく用いられる方法です。最初に、円状のもの(紙の皿、プラフープ)を各メンバーの指1本で腰の高さぐらいで支えます。それを頭の高さまで上げるゲームです。このゲームでは、メンバーの一体感が形成されないとうまく持ち上げられません。チーム力があるグループはできます。

#### ・類人猿診断

精神科医の名越先生が人間タイプを単独行動で職人肌のオランウータン、ムラっ気が強いけどリーダーシップのあるチンパンジー、秩序を守る物静かなゴリラ、愛嬌があって互いの気持ちを大切に作るボノボに分類し、それぞれの特性を考慮して活動することができれば、グループ活動はうまく行きます。チーム活動するための最初の考慮事項として活用できればよいでしょう。

#### ・タイプ分け (<http://www.coacha.com/type/>参照)

タイプ分けは、臨床心理学、組織行動学などをベースに人のコミュニケーションスタイルを4タイプに分類し、現在のあなたと周囲の人がどのタイプに当てはまるかをチェックするテストです。対人関係のあり方は人や物事を支配していくコントローラー(Controller)、文責や戦略を立てていくアナライザー(Analyzer)、人や物事を促進していくプロモーター(Promoter)、全体を支持していくサポーター(Supporter)に分類され、自分と相手のタイプを知ることによりコミュニケーションの幅を広げるのに有効な分析です。同じタイプの人ばかりだと、議論が発散したり、進まなかったりするケースが見られました。